

県外派遣報告書

審判員名	竜田 雅史	所属	中体連	
大会名	平成28年度 第46回関東中学校バスケットボール大会			
期間	平成28年8月9日(火)～8月11日(木)			
会場	千葉県 船橋アリーナ			
スケジュール				
期 日	内 容	場 所		
8月9日(火)	審判会議、1回戦	船橋アリーナ		
8月10日(水)	2回戦、準々決勝	船橋アリーナ		
8月11日(木)	準決勝、決勝	船橋アリーナ		
会議 講義 内容				
<p>①挨拶 渡邊整関東審判長 マンツーマンヴァイオレーションが適用される初の大きな大会である。勝てば全国、負けたら引退のシビアなゲームとなる。割り当てられた試合をしっかりと吹くように。</p> <p>②審判ミーティング 「マンツーマンディフェンス推進 審判の対応」指名審判員 東京都 蒲 健一氏 今大会は全試合2名のマンツーマン・コミッショナーを置いて試合を運営することになっており、事前に配付された「マンツーマン・コミッショナー運用マニュアル」と審判の対応の資料をもとに、具体的なケースの話も含めてお話をいただいた。審判がすべきこととして、 ○マンツーマン・コミッショナーと審判とのコミュニケーション・担当するマンツーマン・コミッショナーとは試合が始める前にあいさつをし、TO席後方にコミッショナー席があることを確認する。 ○審判員の運用について・ゲーム中、マンツーマンディフェンスをしているかどうかの判断は、すべてマンツーマン・コミッショナーが行う。ただし、スローインの際、マッチアップしていないDeflに対しては声をかける。 また、マンツーマンのお話以外にも、蒲氏が昨年度までいたドイツで仕事をしている時の体験をお話頂き、ドイツの学校では、基本的にスポーツは学校が終わってからクラブチームで活動を行っており、中学生の世代は、1対1の強化やシュート練習が主であり、ドイツと日本の違いなど、貴重な体験をお話して下さった。</p>				
実技				
担当試合	期 日	平成28年8月9日(火)	男子 女子	一回戦
	対戦カード	佃(東京)	VS 山梨南(山梨)	主審 副審
	相手審判	若林 謙作(栃木)		
ミーティング内容		主任 星野 由貴(群馬)		
<p>全体を通して、両チームのベンチ・選手がストレスなくゲームが進められていた。5番のエリアもお互いアングルが良い方が判定をしていた。その中で、スペースウォッチングの見方として、スペースの真ん中を求めすぎて、次への備えが遅れることもあるので、100%のスペースよりも、判定の出来るスペースを捉えるように、動くが良い。</p> <p>渡邊諭氏(栃木): 良い判定、良い判断が多く良かった。今後の課題として、細かな部分の配慮が出来ると良い。(クロックの戻すタイミング・ユニホームの出た選手に対しての声掛け・ボールが得点後、転がってしまった時の処置など)</p>				

担当試合	期 日	平成28年8月10日(水)	男子 女子	準々決勝
	対戦カード	陽南(栃木)	VS 昭和学院(千葉)	主審 副審
	相手審判	蒲 健一(指名)		
ミーティング内容		主任 岩本 涼子(神奈川)		
<p>プライマリーを意識して、判定をしていた中で、インサイドの攻防やスクリーン、リバウンドなど、接触が激しい試合の中で、笛を吹かなくても良くするための声掛けや、位置をもっと工夫出来たのではないかと。</p> <p>リードで、セットアップポジションから、ドライブが向かってきた際、良いアングルを作り、ヘルプディフェンスを早く把握出来ると、より判定の材料が増えると思う。</p>				
全体の感想				
<p>今回初めて関東中学校大会へ派遣させていただき、様々な方とお話をしたり、担当のゲームを吹いてみて、「もっと上手になりたい」という気持ちが、今まで以上に強くなりました。今大会は、2日間上級の方と吹いて、グレーのプレーをしっかり白黒見極め、判定する力の凄さというのを体験出来たと同時に、微妙な判定を託してしまう自分の弱さも、痛感しました。より正しく強く判定をする為に、今以上に日頃から審判活動して、判定に対して、もっとこだわりと正確性を持たなければいけないと感じ、今後自分の課題をより明確にして、次のステップに向けて日々精進していきたいと思えます。</p> <p>最後になりましたが、お世話になりました開催県の千葉県審判員の皆様に感謝申し上げます。また、ご指導いただきました関東協会の渡邊整審判長をはじめ派遣された関東ブロックの審判員の皆様、そして今大会に埼玉県として、派遣をしていただきました北島部長に重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>				